

豊水

静岡県水産試験場

駿河湾深層水水産利用施設

Suruga-Bay Deep Seawater Aquaculture Research Center
of Shizuoka Prefectural Fisheries Experiment Station

駿河湾深層水とサガラメ配偶体

かつて静岡県榛南海域には、サガラメと呼ばれる大型の海藻が繁茂していました。しかし、現在ではサガラメなどがなくなる“磯焼け”が発生しています。そのため駿河湾深層水水産利用施設では、磯焼け対策としてサガラメの“種”となる“配偶体”（豊水 vol. 3 参照）を増やす試みをしています。

配偶体は通常顕微鏡下でしか観察できないほど小さいのですが、生長させることによりマリモのような数 mm の塊になります（写真 1）。これを海水と共にミキサーで砕き、再び小さな配偶体にします。

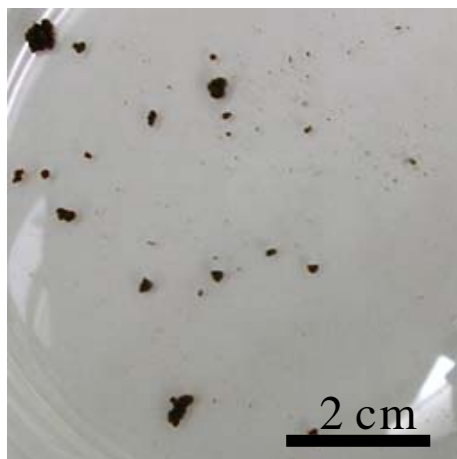


写真 1 . マリモ状の配偶体（褐色の粒）

この配偶体が入った海水に、種苗糸と呼ばれる紐やコンクリートブロックなどを入れると、配偶体はこれらに着生します。その後、育成条件を変えて成熟させるとサガラメの“苗”となります（写真 2）。この方法により、配偶体を生長させた“種”から多数の“苗”を作ることができます。

駿河湾深層水には植物の生長に必要な栄養分である窒素、リンを豊富に含んでいます。そこで配偶体の生長に深層水が適しているかを調べました。その結果、深層水中では配偶体の生長が良く、表層海水の約 2 倍の速さで生長しました。また、人工的に栄養塩を添加した海水と遜色ない生長を示しました。このことより深層水を使った“苗”の大量生産が期待されます。



写真 2 . 種苗糸上のサガラメの苗（約 1mm）

（深層水研究室 二村和視）